



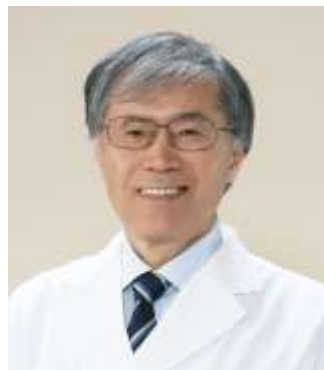
2021年8月号

「徳島大学病院の取り組みと阿波あいネットに期待すること」

阿波あいネットは2017年度に総務省のクラウド型EHR高度化事業として徳島大学病院と徳島県が協働して県下全域を対象にスタートしました。県民の3%の同意を目標に掲げ、徳島大学病院でもブースを設置して患者さんへの参加呼びかけを推進しました。2021年6月末時点で26,840名の同意者数のうち、徳島大学病院の患者ID登録数は10,000人超となっています。

現在、未曾有のコロナ禍において、国は新しい医療の形として医療のデジタル化を強く推進しています。今年度から阿波あいネットでも21施設から検査画像データを開示し、利用施設で参照できる画像参照システムが新たに稼働しています。地域連携システムでは個人の同意のもととはいえ、最も機密性の高い医療情報を他の医療機関と共有し、施設外で保管するため、高いセキュリティレベルを求められています。より高い意識をもって個人情報保護の観点から運用を進めることが重要です。

今後もシステムの安全性と個人情報の保護への最大限の配慮を行いながら、さらに救急や災害などの有事での活用、また歯科、薬剤、介護など多職種連携での活用が進み、国内のICT医療連携の良いお手本になることを期待しています。



阿波あいネット理事
徳島大学病院長
香美祥二

ご報告: オンライン診療勉強会を開催しました

阿波あいネットオンライン診療勉強会 (Web開催)
令和3年4月15日19:00~20:00 参加者 35名

冒頭で阿波あいネット永廣信治理事長からの開会の挨拶を頂きました。

次にシステム管理委員長廣瀬隼先生より阿波あいネットの2017年からこれまでの経緯と画像連携に関する新たな試みについて紹介がありました。

次に、今回のテーマであるオンライン診療に関し、PHC株式会社後藤孝周様より、これまでの政策的変遷から、コロナ禍で加速する現況、さらに今後の方向性について解説していただきました。恒久化に向け、受診歴のない患者へのオンライン診療の対応をどのようにするかが今後の課題であることが明確になりました。

最後に、徳島県立中央病院糖尿病・代謝内科部長の白神敦久先生より、徳島県立中央病院と徳島県立海部病院との間での遠隔医療に関する実臨床での試みに関してご紹介がありました。特に、オンライン診療の成功は患者と医療者の信頼にあること、オンライン診療と阿波あいネットのような Electronic Health Record (EHR) との相性が良いということが印象的でした。

最後に広報委員長の松久副理事長から、今後も阿波あいネットの普及をめざし、勉強会を企画していくこととお伝えし、会を終えました。



地域医療情報ネットワークのご紹介 「あじさいネット研究会に参加して」



長崎県の地域医療情報ネットワークあじさいネットについて先日2021年6月19日（土）にZoomウェビナーで開催された研究会に参加しましたのでご報告します。

長崎県大村市で2004年にスタートしたあじさいネットは同意者数が長崎県民の約一割、参加施設数は約400施設と歴史のある地域医療情報ネットワークです。地域拠点病院の情報を情報閲覧施設が参照する規模の大きいネットワークで、参考となる部分が多々ありました。

阿波あいネットでも画像参照システムが今年度から稼働しておりますが、今回の研究会での事例紹介では、検査画像共有による手術時間短縮の例や、搬送前の情報共有による治療方針決定の例が紹介されました。あじさいネットを介しての移植カンファランスの実例紹介もありました。あじさいネットは365日24時間の救急対応を実現するため、時間外の事務局機能を外部委託しているそうです。救急の場面での阿波あいネット利用の実現に向けて参考になる情報でした。

離島が多い長崎県西海市では、過疎化による医療資源の不足を情報連携で補完する事業を2年で計画しているという発表でした。自治体が医療情報を閲覧できるタブレットなどの機器の購入を負担することであじさいネットの普及をはかるそうです。同時にあじさいネットが整備したオンライン診療ソフトも利用できるようになるとのことでした。地域医療情報ネットワークの拡充においては自治体のご理解やご協力が重要だと感じました。

講演の中にもシステムの受益者は患者さんであり、医療機関自体のメリットが少ないことを問題としている発表もありました。診療報酬の電子加算引き上げなど全国の地域医療情報ネットワークが国に働きかけていくことが呼びかけられ、会が閉じられました。

阿波あいネット事務局



コラム 「オンライン診療と阿波あいネット」

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、医師と患者との直接的な対面を伴わないオンライン診療推進の気運が高まっています。昨年4月には、これまで認められていなかった初診からのオンライン診療が一定の条件のもと可能となり、今後さらに、これを恒久的なルールとするべく議論が進められているところです。

では、徳島県内におけるオンライン診療の現状はどうでしょうか。厚生労働省では月に1度、各都道府県でのオンライン診療等の実施状況について調査を行い、「電話や情報通信機器を用いて診療を実施する医療機関の一覧」をwebサイト上に掲載しております。それによると、徳島県では210の医療機関がすでに情報通信機器等を利用した診療を実施しているとのことです。県内には病院、診療所が併せて約700か所ありますので、約3割の医療機関がオンライン診療等を実施していることになります。この数字自体は他県と比較しても少なくともはありませんが、ここ1年で10か所ほどしか増えておらず、伸び悩みの傾向が見られます。

オンライン診療の導入を妨げる原因の1つとして、画面越しの診察で症状が正確に把握できるのかという医師の不安が考えられます。阿波あいネットのような地域医療情報ネットワークは、医師が患者の病歴へアクセスすることを可能とすることで、オンライン診療の利便性を高め、こういった不安をいづから取り除くことが期待されます。オンライン診療の推進のためにも阿波あいネットの利用拡大への御協力をお願いいたします。

徳島県保健福祉部医療政策課長 廣瀬 和久

(参考)厚生労働省「新型コロナウイルス感染症の感染拡大を踏まえたオンライン診療について」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/rinsyo/index_0014.html

ご意見・ご要望など
お気軽にお寄せください。

徳島大学病院 病院情報センター
ICT地域連携プロジェクト室
阿波あいネット事務局

Tel 088-633-9397 or
090-1558-5889

E-mail office@awainet.org
URL <https://awainet.com/>

